

人と魚と海のネットワーク
 香川県漁連ホームページ
<http://seaclub.power.co.jp/>
 E-mail:gyoren@power.co.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
 TEL 087-825-0350
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

謹賀新年

香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 田村 敦市



年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご協力を賜りありがとうございました。

さて、我が国の漁業は、200海里制度やTAC制度が定着する中で、国民の健康で豊かな食生活を支える良質な水産

物を安定的に供給するという社会的使命を如何に果たすかが問われています。

昨年は、アメリカにおける同時多発テロや狂牛病の発生等、内外ともに私たちの生活を脅かす出来事がありました。また、失業率も史上最悪の水準となり、大小企業の倒産、リストラ等、世の中はまさにデフレスパイラルの様相を呈しています。

本県漁業におきましても、資源の減少、消費の低迷、輸入水産物の増大等による魚価の低迷・販売不振、更には就業者の減少・高齢化・後継者不足等かつてない難局に直面しています。また、ゴミや油の流出による海の環境悪化や多発する海難事故等により、漁業の健全な発展への影響や漁村地域の活力の低下が懸念されています。

そうした中で、昨年6月、水産物の安定供給の確保と水産業の健全な発展を実現するために、水産業の構造改革ともいえる「水産基本法」が施行されました。

本県水産業が抱える諸問題を克服し、将来に向けて安定的に発展させていくためには、この基本法に示された道筋に従い、環境にやさしい漁業を念頭に置き、養殖業の積極的展開と、栽培漁業と資源管理型漁業の有機的な連携、新たな流通システムの構築等により「つくり育てて売る漁業」を推進し、漁業者の積極的な取り組みを背景とした「地域に根ざした活力ある香川型漁業」を確立することが急務であります。

また、漁業生産の源である豊かな海の環境保全について、海は県民共有の財産との認識の下に県民あげての運動として取り組むとともに、海難事故の防止や漁業と海洋性レクリエーションとの共存をめざす海面利用の適正化に取り組む必要があります。

さらに、こうした活動の母体となる漁協の合併・事業統合による漁業基盤の強化を推進し、担い手の確保や都市住民との交流などに取り組み、活力と魅力ある漁村づくりを進めていくことも今後の重要な課題です。

こうした認識のもとに、県漁連といたしましては、厳しい経営環境が予想されるなか、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して、特に本県水産業の発展のために魚価安定と加工・販売対策の推進、資源管理組織の機能強化と低コスト型漁業への転換、漁協の合併・事業統合の計画的推進に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新しく迎えました平成14年が県内漁業にとりまして、明るい希望にみちた年でありますように心からお祈りいたします。

顧みますと、昨年のかん水養殖業は、国内生産量の増大と相まって、輸入サーモンとの競合、天然ワラサ、イナダの豊漁等、消費低迷の折から色々な悪条件が重なり価格の暴落を引き起こしたため、県内産出荷時において生産原価を大きく下廻る、かつて

ない低価格で推移して大変厳しい局面におかれ、一昨年に続き漁家経営存亡の危機的な状況となり、組合員皆様の心労いばかりかと思う次第であります。

こうした状況の中ではありますが、国民の重要な食糧産業として、養殖業の消費者に対するこれまでの悪いイメージを払拭すべく、生産者の顔が見える養殖と、安全、安心を大いにPRすべきと考え、昨年、地域水産物利用推進事業として、かがわお魚体験ツアーを実施し、関東、関西地区より消費者、流通関係者を招いて引田漁協での大型イケスのハマチの給餌作業と庵治漁協では活魚運搬船によるカンパチの出荷作業等を見学して頂き、意見交換会の席上でも活発な質疑がありました。

こうした消費対策は、全国かん水養魚協会でも検討を重ね、13年度事業で養殖魚インフォメーションセンターの設置を立ち上げ、消費者に向けて様々な分野で情報開示し、生産者自らが胸襟を開いて養殖現場の現状を訴えることとしております。又、同協会では、モジャコの採捕枠と併せて輸入カンパチの自主規制を促し、ブリ類の2割削減を決議して、既に各県の漁場環境に適した放養尾数の見直しを図るための調整中であり、これが実現のために鋭意努力して参る所存です。

今後は、香川県かん水漁協においても、香川県漁連の販売力に見合った適正放養尾数を考慮して、組合員自らが安定生産、安定価格、安定供給の重要性を再認識して頂き、英知を結集してこの多難な時期を乗り越えて行かなければならないと考える次第であります。

最後に、かん水養殖漁業の発展と前浜の活力と笑顔を取り戻し、今年こそ組合員皆様に明るい展望が開けますことをご祈念申し上げまして年頭の挨拶とします。



香川県海苔養殖研究会

会長 柳 生 忠



初春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

平成14年がノリ業界にとって豊漁年となることをご祈念申し上げますとともに、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。また、会員の皆様には最盛期で日夜懸命に頑張っておられることと存じますが、健康にはくれぐれもご留意頂きますようお願い致します。

さて、近年の消費動向を振り返ってみますと、個人消費は低価格節約型でいっこうに伸びず、百貨店をはじめスーパーなどでは、売上高が前年を下回る状況が続いております。加えて、昨年は大型量販店の会社更生法の申請、狂牛病の発生、さらに米国での同時多発テロの影響などで、景気はより厳しさを増す環境にあります。また、ノリ業界におきましても相次ぐ大手商社の倒産がありました。このような中、ノリ異物混入や生菌着生問題など、衛生面での消費者からの安全性に対する要求も年々厳しくなっておりますが、会員の皆様のご努力により、異物検出機等の設置も本県におきましては、ほぼ整備されました。当研究会としては、今後とも「安心、安全で旨い香川県産乾ノリ」を、流通業界並びに関係機関のご協力を得て、供給できるよう研究してまいりますとともに、消費者に広くご理解を求めながら自然食品として将来にわたって本県のノリ養殖業が持続的に発展するよう努力して参る所存でございます。

最後に、当研究会の会員、技術部員ならびにノリ関係者の方々の今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げまして新年のご挨拶といたします。



香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長 服 部 郁 弘



新年明けましておめでとうございます。平成14年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、格別のご支援により、当組合の運営が順調に推進できましたことを心から感謝申し上げます。本年も、漁業無線の維持発展のため、より一層の深いご理解とご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

さて、昨今の情報分野を展望しますと、陸上並びに海上通信に於ける携帯電話の普及は、若干頭打ちとは云うものの新機種への移行等で増加を続けており、一般社会では欠かせない通信手段となっています。しかしながら、昨年7月、長崎県五島列島沖で操業中の小型漁船が、携帯電話によるエンジン不調の通信連絡を最後に消息不明となり、奇跡的に千葉県犬吠埼沖で約1ヶ月振りにマグロ漁船に無事発見されたことが、マスコミで大きく報道されましたが、この二千呎におよぶ長期漂流事故は、携帯電話だけの連絡手段しかなかったために起こったものであ

り、改めて、海上における携帯電話での通信の限界と小型漁船への漁業無線の装備の重要性を再認識させられたケースでありました。

当組合を取り巻く状況は、漁業従事者数の減少が続いており、益々厳しさを増すことが懸念されますが、本県海域は多くの船舶が輻輳するなか、海上における操業の安全と効率化による生産性の向上に加えて貴重な人命を守るという当組合に課せられた使命は、今後も増すことはあっても減じることはありません。

当組合は、時代の変化・漁業者のニーズに対応し、本県の重要な基幹産業である漁船漁業の発展のため、地道な努力を続けて参る所存でございます。

引き続き、組合員各位におかれましては、本年も格段のご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

最後に組合員・系統関係者皆様方の一層のご繁栄とご健勝を祈念して、新年のご挨拶と致します。

み交わす静かなお正月である。

二日の漁港は急に賑やかになる。いや、なったものだ、というのが正しい。正月二日は全国どの漁港でも「乗り初め」の日である。大漁旗で飾られた漁船に、松や榊に注連縄を掛け、お餅、お神酒、五穀、魚の供物を供え、“船玉(霊)様”に一年の海上安全を祈願して拍手を打つ。

かつては、伊吹島では、網元が祭り主となって盛大な乗り初め神事が行われていた。乗り初めには、その年の乗組員を決める重要なもう一つの役割があった。タイ縛網やバッチ網のような大勢の水夫が係わる漁業では、個々の水夫の高い技術も必要だが、なによりも水夫たちの呼吸が合わなければ、大漁はおぼつかない。水夫たちの団結と結束を堅くする結団式が乗り初めであった。祭祀の後、この日は無礼講であった。この乗り初めは昭和30年代前半迄おこなわれていたらしいが、古老に聞いても、はっきりとした記憶がなく、確かなことは不詳である。

伊吹の正月について

漁村の正月の港ほど色彩にあふれた風景はない。思い思いに飾り立てた大漁旗が静かに舫った漁船の上で、ゆっくりたなびいている。

日頃は、エンジン音と魚臭、漁師さんたちの喧噪ばかりで色のない漁港が、正月には赤、青、黄と満艦飾に化粧される。それでいて人影はなく、静かだ。年に一度、正月ばかりはすべての漁船たちにとっても正月休みだ。

伊吹のバッチ網漁業の網元の家では、年末に何日もかけて、あらかじめ購入しておいたワラを当主が浜の海水で清めた後、注連縄を何十もつくり、船は勿論のこと、煮干鯛加工場の出入口、乾燥機、煎り釜、フィッシュポンプ、製氷機等主要な加工機に飾る他、本家・加工場の床の間、神棚、仏壇、竈、井戸等にも飾り、煮干鯛、塩、洗い米、お神酒を供え、本家、加工場をキレイに掃き清めて、静かにお正月を迎える。お正月は、初日の出の遙拝から始まる。海の彼方におわします海の神々、大漁の神、暴風の神、疫病の神、それらの神様たちは常に、大漁をもたらす暴風をなだめ疫病を防ぐ「幸い神」の顔と、不漁をつづけ暴風をぶっつけ疫病を運びくる「災い神」の顔の二つの顔を持つ。海の民たちは、そんな海々の神々と遙か昔から付き合い続けている。

海の神様に供物を供え祈りを捧げた後、神社仏閣、港のえびす様、弁天様、金比羅様にもお参りする。床の間に祀った歳の神の前で、揃った家族親戚と酌



注連縄を一生懸命に作っているバッチ網の当主

主な行事予定 (1/4 ~ 1/31)

- 1月 4日(金) 御用始め
- 1月 5日(土) 新年初市祈願祭(高松市中央卸売市場)
- 1月11日(金) 第4回乾海苔共販
- 1月12日(土) 小豆地区漁業組合連絡協議会通常総会
- 1月22日(火) 漁村女性活動支援事業
- 1月24日(木) 第5回乾海苔共販
- 1月30日(水) 県漁連臨時総会
県信漁連臨時総会
(社)香川県水産振興協会(仮称)設立総会